

家庭



賢母たるの要素

最近数年の間に於て、我國の女子教育の進歩發達した事は、總べての出來事の中で最も著しい事實である、従つて女子教育の機關として、女學校の増設せられた事も最も顯著な事實で、殊に東京に於て吾人は其最も著るしき事を感じる、而してこれ等の女學校の標榜する所は、何れも皆良妻賢母を養成するを以て目的とすといふに在る。

然しながら、徐ろに熟察して見ると、其所謂良

妻賢母といふ語の意義が、甚だ曖昧であると思ふ詳細にいふと、人によりて良妻賢母といふ語の解釋が違ひはしまいか、どういふのが良妻であるかどうかといふのが賢母であるかといへば、各人の考ふる所は必らずしも常に一致しないではあるまいかある人は、かくくのが良妻だといひ、ある人はしかくくのが賢母だと考へる。して見ると、所謂良妻賢母といつても、たゞ其名目だけでは分らぬまして現今の様な、家庭に關する新舊思想が、明に二の潮流をなして居る時代には、尙更其内容意義を明示する必要があると思ふ。

吾人は茲で、敢てこの問題を解釋しようと思ふのではない、賢母とは果して如何なる資格を有するものをいふか、良妻とは果して如何の教育を受けたものをいふかを決定しようとするのではない

い、然しながら例令夫等の意義内容を如何様に解釋するにしても、夫等の資格をどう決定するにしても所謂賢母良妻といふ語の中には到底缺くべからざる一の要素といふものがあつて、然も世人は此要素を見ることが、他の資格意義等に關して大に冷淡ではあるまいかと、思ふのである。

近頃東京の某新聞紙に、當世百人娘といふ題の下に、日々都下の令嬢の肖像、性質等を掲載して居る。其の多數は大低高等女學校程度の卒業生で従つて良家の妙齡の少女である。吾人は、果してどういふ目的で、此記事が續けられつゝあるかを詳にしないが、其記載して居る節は、殆んど同一筆法で、曰く、性質順良快活、曰く琴曲は其奥義を得たり、曰く生花は其妙を極む、曰く最も書畫は堪能なり、曰く茶道は何某に就いて、割烹は

何某を師として何れも一通りの嗜みあり、曰く何曰く何、其よく百般の諸藝に亘りて堪能を得て居るのには、一に驚く外はないが、然かも妙齡の處女として、將來の良妻賢母として、所謂吾人の望む所の一要素に付いては、一人として記載せられて居ないのである。其一要素とは何か、曰く育児の術である。

育児といふ事は、婦人に取りては固より唯一の務ではない、然し一般の婦人に取りては、殆んど必然の義務である、結婚をして圓滿なる家庭を作り、子を生みて之を立派に育て上げ、以て社會の有力なる一員として之を國家に貢獻するといふことは、よし婦人たるもの、唯一の務でないにしたら所が、多數の婦人に取りては最も大なる、最も必然の義務だと思ふ。吾人は良妻といひ、賢母とい

ふものを例令如何様に解釋しても、此大なる義務を果すに必要な育児の方法に曉通して居るといふことは決して缺くことが出来ない一要素であると思ふ。

吾人は琴曲とか、茶道とか、生花とか、和歌とかの如きが、婦人の高尚優美な性格にどれ程の影響を興へるものであるか、若くは結婚前に於て、何を捨て、も是非とも之等に通曉して置かねば、將來家庭を作る上に於て、果してどれ程の不都合が生ずるだらうかといふ様なことに付きては、こゝで詳論する邊を得ない。然れども、一朝育児の知識を缺いて居つては、妻としてはた母として、自己の家庭の爲めはた國家のためどれ程の不幸を醸すかも計られないことは断々として明言し得るのである。ある人は「總領のじんろく」といふ諺

に通俗の解釋を興へて、總領は結婚した婦人が育児の智識も経験もない折に出来た子だから、大抵は馬鹿になるのだといふことを顯はしたのだといつた。はた又、人間の死亡の數は生後一年の間に最も多いといふのであるが、夫が又長子に多いか次子に多いかを調べたならば、必ず其死亡は、長子に多からうと思ふ、これ亦母たる者の育児の心得がない事が確に其主なる一原因をなすのに違ない。

かく考へて見ると、將來人の妻となり、人の母となるに必要な資格は、勿論他にも種々あるであらうけれども育児の心得を十分に得ておくことは極めて必要なる一要素をなすことは、最明である。然るに、現今、妙齡の婦人令嬢にして比較的輕んずべき他の諸藝術に力を専らにしながら、此

要素に向つては殆んど注意を拂はないし、世間も亦格別之を不思議がらないといふことは、實に怪しむべき限である、勿論古來育兒の事といふものは、大低母となつてから、殆んど本能的に、殆んど無意識的にやつて行つて居ることは事實である然しながら子供を育てるに、どうすれば其精神なり其身體なりに悪影響を與ふるか、若しくは良感化を及ぼすかなど云ふことを十分に意識しないでたゞ無意識的に、たゞ本能的にやつて行くといふでは、それは全く偶然的の動作であつて、實に不安心とも危険とも譬へ様のないといふことは、前既に述べた所で分る。

嘗て、マールンホルツ、ビュロー夫人が次の如くに言つたことがある、「女子の教科として亞弗利加内地の記事だとか、極東亞細亞の氣候などは、

母の責務たる育兒の課目をさし置いてまでも教へなければならぬ必要があるであらうか」と吾人は今日、育兒のことをさし置いて、幾多の時間と能力と金とを、前述べた様な諸藝術に費消して願みない當世百人娘や、其親たちや、はた世間一般の人に向つて、謹んで此言葉を進呈し、併せて直接に良妻賢母の養成に従事せられる人々に向つても此點に向つて十分の注意を拂はれんことを希望する者である。

(擊水)

玩具に就きて

ま つ 子

幼稚園に於て弄ぶべき玩具即恩物は木板箸環豆細工剪纸或は織紙等の色々の種類があります、何も工夫力想像力に訴へなければなりません